

研究主題「主体的・対話的で深い学びの追求」

—ドキュメンテーションシート等を活用して保育の見える化を図りながら—

社会福祉法人汰功樹会わくわく鹿児島中央認定こども園

発表者 指導保育教諭

1 園の概要

本園は、社会福祉法人汰功樹会が平成28年に「わくわく鹿児島中央保育園」として創設し、平成31年より「幼保連携型認定こども園わくわく鹿児島中央認定こども園」へ移行し、現在に至る。

本園は「地域に浮かぶ船」のようなものであり、保護者や地域の方々の支えがあって目的港に入港することができる。その考えを根底に、教育・保育の理念を「こどもの輝く『命』を尊重し、一人一人の個性を大切に、保護者から信頼され、地域に愛されるこども園像」を目指すこととしている。

教育・保育の方針は、1 乳幼児期に大切な意欲・思考力・社会性等非認知能力を培う教育・保育を進める。(子どもたちが主体的・対話的で深い学びをする教育・保育を通して実現) 2 一人遊び・室内遊びから戸外遊びを進める。 3 自由遊び・設定遊びのバランスのとれた教育・保育を進めるとしている。

2 テーマの設定理由

保育実践は、保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の正しい理解と本園の教育理念を基盤とし、子どもの理解を深めながら組織的・計画的に進めていくことが大切であると考えている。今回の改訂で育みたい資質・能力が示された。「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」の3つの柱である。これらは、未来に生きる子どもたちが、様々な問題を解決しながらたくましく生き抜いていく力を育む資質・能力である。

生きる力を支える3つの資質・能力は乳幼児期から小・中・高を通して育んでいくことが示されており、本園でも緊要な教育・保育の課題として受け止め、取り組むこととした。そしてまた、3つの資質・能力を育むための日々の教育・保育の改善の方向が「主体的・対話的で深い学び」の実践として併せて示されている。

したがって、本園では、国から示された日々の教育・保育の改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現を研究テーマとして取り組むこととした。

3 研究の目的

今回の改訂で未来に生きる子どもたちに育むべきこととして、3つの資質・能力等の教育方針が乳幼児期・小学校・中学校・高等学校と一貫して同内容のことが示された。その中でも、保育園・幼稚園から高等学校まで「主体的・対話的で深い学び」が日々の教育・保育の改善の視点として初めて幼児期から明示されたことを重く受け止め、このテーマを設定し、一步一步、実践を通して、明らかにしていくことにした。

本園では、教育・保育の改革のうねりの時機にこの職にあることを誇りに思い、志と気概をもって取り組むことにした。

4. 研究対象及び実施期間

1) 対象

今回の保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領で示された日々の教育・保育の改善の視点である「主体的・対話的で深い」学びについて子どもの姿から明らかにしていくことにした。

また、0歳児から5歳児の子どもたちの教育・保育を進める保育教諭の関わり等も併せて研究の対象とした。

2) 実施期間

令和4年度・令和5年度は、「主体的・対話的・深い学び」のそれぞれについて、子どもの姿から明らかにすることに取り組んだ。

令和6年度は、子どもたち一人一人に「主体的・対話的・深い学び」をさせるために保育者はどう環境構成したり、関わったりしたらよいかについて取り組んでいる。

3) 倫理的配慮

子どもたち一人一人の画像については、保護者に同意を得たり、ネームを隠したりして個人情報について配慮している。

5 研究方法

1) 主体的・対話的・深い学びとはそれぞれがどういうことかについて明らかにする。

① □子どもの活動の姿で「主体的である」・「対話的である」・「深い学びをしている」ととらえた場面を写真で切り取り、「保育ドキュメンテーションシート」を作成し、それぞれが持ち寄り、一つ一つについて概念を明らかにする。



② □研究保育の時間だけでなく、日々の園での生活全体を通して「主体的である」・「対話的である」・「深い学びである」ととらえた場面を付箋紙法で分類・整理して概念を明らかにしていく。□

2) 主体的・対話的で深い学びをさせる日々の保育について明らかにする。

保育参観を通して、「主体的・対話的に活動させている教師の手立て等」を子どもの姿から「保育ドキュメンテーション」を作成するなどして明らかにしていく。



6 結果(本園の研究誌から一部抜粋)

1) 「主体的学び」と思った場面【遊びに没頭している姿等】

① □0歳児

○ 「小麦粉粘土遊び」;はじめは小麦粉粘土の感触や見た目に戸惑いが見られたが、子どもたちも少しずつ慣れて積極的に粘土をこねる姿が見られた。

② 1歳児

「大掃除をしよう」;一人一人にペーパーを配ったら、それぞれが教室中を楽しそうに拭いてまわっていた。

2) 「対話的学び」と思った場面【人や物等に思いや考えを伝え合っている姿】

① 2歳児

○ 「雨遊びをしよう」;雨あそびに始める前に、実際に降っている雨体験をさせると風船雨遊びに夢中になって遊んでいた。(自然との対話)



② 3歳児

○ 「飛ぶかえるをつくろう」;早く作成した子どもたちが話合いながら飛ばしっこをはじめた。

3) 「深い学び」と思った場面【試行錯誤の気づきによりもの見方や考え方が成長している姿】

① 4歳児

○ 「新聞紙で遊ぼう」;新聞紙を使ったゲームをしていたが、お化け屋敷やテントを作ろうと遊びを発展させて、みんなで協力して一生懸命に作り、遊びを楽しんだ。

② 5歳児

○ 「ゲーム遊びをしよう」;振り返りの時間にそれぞれの作戦会議で出された勝つための方法(ホワイトボード)を共有させ、自分のチームで思いつかなかったことに気付くことができた。

4) 主体的・対話的で深い学びの視点による教育・保育の改善の実践(研究誌から一部抜粋)

学年・保育内容	遊びの創出	遊びの没頭	遊びの振り返り
0歳児 「ボール遊びをしよう」	保育者が手作りボール等を転がしたり、投げたりして音や転がり方に興味を持たせた。	自分で転がして、はいはいしながら追いかけていた。	お片付けの時、かごに玉入れ遊びなどを取り入れることで楽しい気持ちで終えられた。
1歳児 「いちご狩りをしよう」 	いちごやいちごを入れるバック作りを行い、いちごを狩る楽しさへの意欲を高めた。	いちごを保育者に食べさせたり、食べる真似をしたりして楽しく遊んでいた。	バックを持つことへの興味が出てきて、後日のお買い物ごっこにつながった。

学年・保育内容	遊びの創出	遊びの没頭	遊びの振り返り
2歳児 「アンブレラスカイをつくらう」	梅雨期ということでお絵描きなどを通して傘づくりへの意欲付けができた。	底の部分に色塗りをする子どもが多数だったので側面も塗ったら伝えようと内側から塗る子どもも出てきた。	保育室に飾ることで満足そうに眺める子どもやブロックで傘の柄の部分を作って遊ぶ子どももいた。
3歳児 「あじさいをつくらう」	実際に紫陽花を持ってきて、どんな色か、どんな形かなど観察して共有してから制作に入った。	花の形を気にしないで自由に描く子どもや観察しながら描く子どもなど楽しみながら描いていた。	できあがったいろいろな紫陽花を見せあうことで工夫したところなど気付き合うことができた。
4歳児 「サーキット、リトミック遊びをしよう」 	ルールの説明の時、保育者が実際にやって見せることで今からやる活動のイメージを持たせられた。	それぞれのチームで応援する姿が見られた。その後、リトミック遊びに変換すること興味・関心が持続できた。	振り返ることで楽しかったことや工夫したことを発表し合うことで新たな気づきをした子どもたちがいた。
5歳児 「竹とんぼつくらう」	竹とんぼを想像させてから、牛乳パックの竹とんぼを飛ばすと、子どもたちから驚きの歓声があがった。	屋上に行って飛ばした。上手飛ばなかったら友達に聞いたり、保育者に相談したりしながら楽しんでいた。	竹とんぼを遠くに高く飛ばすことのできた子どもたちの話を聞いて、もう一度作りたいとの声があがった。

7 考察

1) 子どもたちが主体的・対話的で深い学びをすることについて

- ① □主体的・対話的をそれぞれ別々に概念を明らかにしてきたが、研修を進めるにつれて、主体的と対話的は分離してとらえることは難しい。特に学年が上がるにつれてそれぞれが関連している活動場面が多い。
- ② □深い学びは、子どものものの見方や考え方が様々な気づき等通して変わっていくことではないかと思われる。
- ③ 深い学びは、主体的・対話的な学びを通して生まれてくるのではないかと思われる。

2) 子どもたちに主体的・対話的で深い学びをさせる教育・保育について

- ① □学びの創出の場面で子どもが「なんだろう」「面白そうだ」「不思議だな」等の心を揺さぶったり、問題意識を持たせたりすることで活動が主体的になる。
- ② □多様な教材やゆったりとした時間を準備して、子どもが選択して活動できるようにした方が主体的になる。
- ③ 目標を明確に持たせることで見通しを持ち、遊びに没頭する。
- ④ 意図的に話合いの場、協力する場を設定することで学びがより深くなる。
- ⑤ 子どもたちのものの見方・考え方を成長させることが教育・保育の深さにつながる

3) 今後、子どもの見方・考え方を深めていく教育・保育の在り方を追求の課題に含める。

8 まとめ

未知の問題を解決しながらたくましく生き抜く力を育むためには、子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶことが必要であり、そのような教育・保育を進めることが私たち保育者に求められている。

まだ、道半ばある、皆様方のご意見・ご指導を糧にしてさらに日々の教育・保育につながる実践的研修を進めてまいりたい。

